令和７年２月１４日

日立理科クラブ通信

Ｎｏ．２４０

日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて２　日立市立河原子小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、河原子小学校（大澤真由美校長）の櫻井隆（さくらい　たかし）さんです。

櫻井さんは、茨城県龍ケ崎市の出身です。子どもの頃は、模型作りと鉄道が好きだったそうです。今でも電車に乗るのが好きでよく出かけるそうです。父親がエンジニアだったのでその影響でエンジニアになったのかなと話していました。

「理科室のおじさん」櫻井隆さん

理科クラブに入る前は、日立製作所の日立工場で生産設備設計などをする機械エンジニアの仕事をしていました。その後、日立グループの情報システムのグローバル統合などを行うＩＴエンジニアの仕事もしました。２００４年１０月～２０１０年３月はアメリカ駐在していたそうです。

実験準備

理科室のおじさんは河原子小学校だけで、7年になります。学校では、「櫻井先生」と呼ばれ、児童にとても親しまれています。児童が理科は楽しいと言ってくれたときや、先生方に感謝されたときにやりがいを感じるそうです。

準備室のマイクロビット

火起こし

いつもは理科室で、授業の準備や片付けをしています。先生方が授業に集中できるように準備も徹底するようにしています。この日は、４年生用に空気の対流実験、５年生用には電磁石の実験の準備をしていました。昼休みの時間帯に伺ったのですが、先生方が、続々と理科室の櫻井さんを訪れ、授業の進め方や実験の準備について打合せをしていました。先生方に頼りにされているのを感じました。

櫻井さんは、学校の機器や、理科クラブの機器をできるだけ有効に活用しようとしています。例えば、学校に配置されているマイクロビットをもっと活用できないかと考え、先生方に相談し実践してきました。こうした中から、理科クラブでもマイクロビットを使ったプログラミング学習の授業支援が始まり、今では他の学校の授業支援にも参加しています。これからは、益々プログラミングや電子機器の利用が必要になるので、その役に立ちたいと話していました。また、理科クラブの教材や授業支援を先生方に紹介したり、火起こしや電気くらげなど自分で教材を工夫したりしています。児童が理科を通してわくわくしてほしいと思っているからです。

授業中の声かけ

児童に伝えたいのは、不思議に思ったら、何故なのか自分で考えてみること、知りたいこと、やりたいことがあったらあきらめないことです。

この日の５時限目、４年生の授業を参観させていただきました。櫻井さんは、実験の準備はもちろん、授業でも活躍していました。線香の煙の動きがわかるように、黒い紙を宛てながら「こうするとよく見えるよ」、「どうしてこうなるのかな」、「よくがんばったね」などと声をかけていました。児童に質問されると、一生懸命に調べるそうです。

最後に、河原子小学校のよさを聞きました。児童がいないときでも先生方は、〇〇さんはがんばっているねなどと、児童のことを話題にしているそうです。そのように児童と先生の距離が近いこと、先生方が児童第一で接していることをあげてくれました。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104